

2004年パラリンピックに出場!

小94大中高37期 寺井亜紀さん



アテネオリンピックで輝かしい記録を更新した日本選手団。その興奮の冷めやらぬ中、引き続き開催されたパラリンピックにおいても日本選手が大活躍! その選手団のひとり、強豪ひしめくエアライフル伏射男女混合競技で見事7位入賞を果たした寺井亜紀さんは母校の卒業生! その寺井さんを招いてあれ

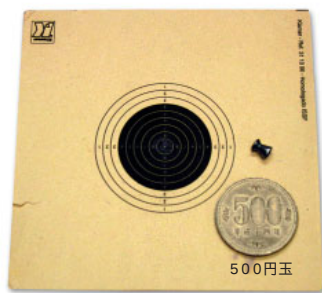
これお話を聞きました。お忙しいなか、本日はありがとうございます。また、7位入賞おめでとうございます。「ありがとうございます。また、壮行会の際には、支援金をいただきましたこと、この場を借りて皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。」7位というのは、射撃日本代表チームで最上位の成績だったそうですね? 「はい、おかげさまで。なんとか入賞を果たす事が出来ました。」まだ、競技が終わられてもお忙しかったのではないですか? 「10月27日には、パラリンピック日本選手団のひとりとして皇居春春秋の間で天皇、皇后両陛下に拝謁させていただきました。また、その後、首相官邸で小泉純一郎首相にもお会いしたりと、色々な行事がありました」

ところで、エアライフル競技はどのようなものなのでしょうか。「時間は90分で弾は60発、600満点で争われます。的は10メートル先にあるんですが、ほんの黒い点にしか見えないのですよ。そのまん中にある小さな点の部分に少しでもかすれば、10点になります。決勝に進出できるのは上位8人です。決勝になると点の採点はよりシビアになります。小数点第1位まで表し、予選の点数に加算される仕組みです。すごい集中力が必要ですね。「そうですね、さっき撃った弾は外れたかな? なんて考えてしまうと迷いが生じるのです。どのような競技でもそうかもしれませんが、自分との戦いが続くのだと思います。あまり的を見過ぎてそれはもう過去の的を見ているって感じで、経験から次の弾を撃つというイメージですかね」やはり、大舞台ということもあって緊張されましたか? 「他の選手は報道陣も多く、緊張したと言いましたが、私は緊張はあまりしなかったような? それよりも隣の外国人選手が撃つたびに、何かブツブツというのが気になって集中力を妨げられたんです。もちろん、お世話係のボランティアの方を通じて、射撃長にその事を伝えてもらいました。確かに声が聞こえるということで注意してもらう事ができましたので良かったのですが」

やはり集中力が大切ということす



パラリンピック電子標示



エアライフルの的と弾



よね。「はい、そうですね。今回はなんとかよかったですが、他の選手にクレームをつけること自体も実際は難しいところもあるのですよ、自分が良い成績をとるために意地悪を言っていると、とられることもありますから。」やはり世界レベルの大会って色々あるんですね。「そうですね、予期せぬ色々なことがありますから私の場合、

昨年のドイツ大会で低血糖で倒れるなんてこともありました。これは、自己管理の問題ですけどね。そんな経験も今回は役立ったといえ、役立ちました。食事もある意味大切じゃないですか。だから今回は、日頃食べ慣れているお米とは違和感のあるパサパサした御飯も、当然ですが外国産牛肉じゃないですか、少しかためと思っても全て体調を整えるため、といただきました。」そうですね、いくら国際大会の経験があっても色々あるでしょうね。アテネ入りされてからはどんな感じで過ごされましたか。「開会式までは毎日1時間の練習時間がありました。でも開会式以降は、競技が開始されますので、前日のオフィシャルトレーニングがあるのみなんです。私は、試合に備え、毎日午前4時30分に起きてコンディションを整えるようにしていたのです。ところが、選手の人が競技に出場するために出ていってしまうと、睡魔に襲われる。そこで、眠ってしまったら今までの苦労が何にもなりませんから睡魔が私にとって一番の強敵だったかもしれないですね。」素朴なことをお聞きしますが、射撃の選手の方々のクラス分けの基準とかはどのようになっているのですか? 「私の場合、SH1cクラスの認定を受けているのですが、これは国際射撃協会認定の医師の方の診断により認定されています。このクラスは手の方は大丈夫ですよ、という事なんです。選手の中には、足を切断されたような方でも頑張っておられますから。」そうですね。「私は脊髄損傷で腹筋がきかなくなっているんです。でも競技のルールで背もたれの高さは頸椎7番目から下26センチという具合に決められているんですね。大変といえば、大変なんですけど私の選んだ競技ですから。良い成績の時には続けていて良かったと思います。」

じゃ、次回の北京の事も視野にいれておられますか。「最高齢は62歳の方なんです。そんな方に比べれば、私なんてまだまだほんととヒヨツ子なんですけどね。一日いちにち自分の好きな事をして、できることを見つめ、ここまでやってきました。まだ4年後の北京は私の中ではずっと先のことでいまはまだ考えることができない、というのが正直な気持ちです」本当にお忙しいなか、本日はありがとうございました。「こちらこそ、ありがとうございます。会報に紹介していただけても大変感謝しています。これからも頑張りますので、応援のほどよろしくお願いいたします」

聞き手 ジュニア部会 馬場耕一郎
会報委員会 松本暁子